

# 商

三年

画数 11  
筆順 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一  
オン シヨウ  
クン あきなひう

成り立ち



高くて大きな「きゆうでん」の形をあらわした字で、「みやこ」のいみをあらわした字です。中国で、漢字がはじめて作られたころの「みやこ」の名前は「シヨウ」といいましたので、この字はシヨウと読まれました。また、このころは「みやこ」の名前が国の名前でもありました。この国がほろびますと、商の人たちの多くは「あきない」にしたがいましたので、あきないする人のことを「商の人」といういみで「商人」といったのが、商人ということとはのおこりです。

使い方

▽ぼくが今まですんでいた所はにぎやかな町中でしたから、商店がたくさんならんでいて、友だちの三人に一人はお父さんが商人でした。

▽雪で道がふさがり、商品が入らないので商売ができませんということでした。

熟語例

▽商店（商いをする店。たんに「店」ともいいます。また、「商家」ということばもあります。）

▽商人（商いをしてにぎわっている人。「商売人」とも「あきんど」ともいいます。むかしは、「商人」と書いて「あきんど」といいました。）

▽商売（商いの品。売り買いする品物。「売り物」ともいいます。）

▽商売（商い。品物を買ったり買ったりして取り引きすること。また、「職業」のいみにもつかわれます。「きみの家の商売はなに？」という時の「商売」は、「職業」といういみです。）

▽商魂（商売をうまくやろうといういきこみ。商売根性。例）商魂たくましい人だ。）

# 章

三年

画数 11  
筆順 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一  
オン シヨウ  
クン

成り立ち



「音楽」や「ことば」のいみをあらわした「音（一年）」と、「数の「ひとまとまり」」のいみをあらわした「十」とを組み合わせて作った字で、「音楽のひとまとまり」のいみや、「ことばのひとまとまり」「文のひとまとまり」のいみをあらわした字です。

「楽章」や「文章」といういみの字です。

「まとまっていてはつきり目立つ」ので、「はつきり」「あきらか」「目立つ」といういみにもつかわれます。

また、「目立つ」「しるし」といういみにもつかわれます。例）記章、勲章。

使い方

▽ぼくは、「トム・ソーヤ」という本を読んでいます。この本は第一章から、とてもおもしろいので、読むのが楽しみです。

▽わたしは文章を書くのが苦手です。だから、良い文章の書き方をおしえてくれないかな、と思います。

熟語例

▽文章（ひとまとまりの文。いくつかの文をつなげて、あるまとまったいみを表したももの。「夏目漱石の『草枕』の文章は、すばらしい」などと、つかいます。）

▽楽章（音楽のひとまとまり。交響曲や協奏曲などの大きな曲で、いくつかに分かれた部分のひととぎり。「モーツァルトの交響曲四十番の第一楽章は、非常に美しい」などというふうにつかいます。）

▽記章（帽子や服などにつけて、自分がどこに所属しているかを示すしるし。「制服に母校の記章をつける」などというふうにつかいます。）

▽勲章（勲い手柄をほめたたえて、おくられる記章。みなさんも、テレビや新聞などで「文化勲章」をおくられた人の記事を見たことがあるでしょう。）